

# ドル/円相場のトレード戦略

## 【ドル/円 週足】



### ■中期展望

昨年 2018 年のドル/円相場は、当初想定していたように 2017 年と同様のレンジ相場が継続しました。

年間の値幅は 10 円を下回り過去最少、2017～2018 年の 2 年間を通して値幅は 14 円に満たず過去最少となり、市場のボラティリティから収益を得ようとするディーラーにとっては極めて厳しい環境となりました。

その大きな要因としては、絶好調だった米国の経済状況にもかかわらず、年初に米国の政策への不透明感からドルが下落したこと、そして年末には米金利のフラットカーブ化やそれに伴う米国株式の大幅下落、米中貿易摩擦の激化などのリスク要因が相次いだことでドルの上値が抑えられたことが挙げられるでしょう。

米国経済が強調であり利上げ予測が続くためにドルロング・ポジションが蓄積される中でもドルが大きく上昇しないという現象は、ドル高派にとって想定しにくい状況であったと思われます。

そのため、本年年明けの 1 月 3 日に 108 円を割り込むと損切りのドル売りを巻き込みながら、ドル短期に 4 円以上の下落という動きが引き起こされました。

その後、1 月の米 FOMC では声明文から追加利上げのバイアスが削除され利上げ継続という政策スタンスが大きく変わったことによりドルは持ち直しました。

また、米経済指標は好調を維持するものも多く、良好なファンダメンタルズのなか金利が低位安定

## ドル/円相場のトレード戦略

するという適温相場が再び始まったとの期待が強まっています。

ただし、米中通商交渉が難航し、米国が対中関税引き上げを実施、中国側も報復措置に出る可能性が高いことがドルの上値を抑える動きが続きそうです。

米中貿易摩擦の深刻化を考えた場合、やや下値リスクが高いと思われ、当面は107円から112円程度のレンジが想定されます。

### ■短期展望

先週は、110円19銭でスタートした後、しばらくは110円挟みで推移したものの、トランプ政権が中国大手通信機器企業ファーウェイに対する規制を一時的に緩和するとの報道を受け、一時110円67銭まで上昇しました。

しかし、米中間の貿易摩擦の激化や長期化への警戒は根強くドルはじりじり軟化、さらにユーロ圏の製造業PMIや米国の製造業PMI指数が相次いで市場予想を下回ったことから世界景気減速懸念が強まり、米国債利回りが低下、ドルも週末には109円27銭まで下落しました。

今週は、米金利低下を背景にドルの上値の重い動きが予想されます。

また、ユーロ/円、ポンド/円や豪ドル/円などクロス円が軒並み下落しており、これがドル/円での円高圧力となっていることもドルの上値を抑えそうです。

109円を割り込むと108円前半が視野に入ってくるため、今週は108円前半から110円半ばのレンジを予想します。